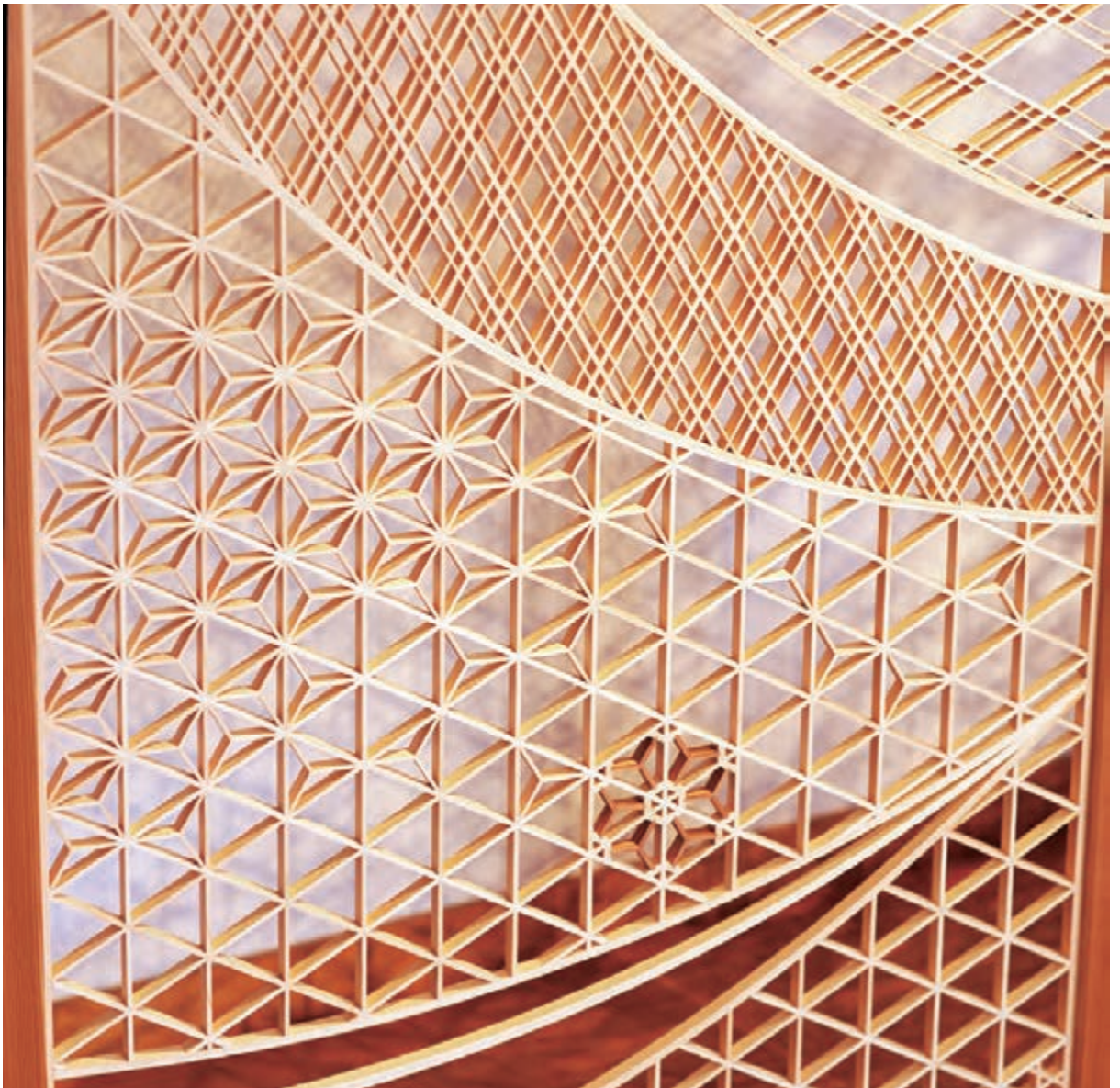


2013 vol.195 OCT

# SOUSAKU

創作手工芸



公益財団法人 日本手工芸作家連合会

## ●より多面的な手工芸の発展を期して

公益財団法人 日本手工芸作家連合会

会長 花村 邦昭



1966年の創立以来47年目の秋を迎えた私ども日本手工芸作家連合会は、本年4月に公益財団法人の認定を受けたことも踏まえて、これまでの活動の積み重ねの上に、更なる手工芸世界の発展を期して、具体的な活動を活発に展開していこうと考えております。

その具体策のひとつとして、本年5月末に、わが国の手工芸創造・発展の地京都において、久方ぶりに研修会の開催を企画し、広く皆様方にご参加を呼びかけましたところ、北は東北から南は九州までの全国各地から参加者一杯のご参加をいただくことができました。

詳細は、本冊子の会員便りに掲載しておりますとおり、初日に日本の手工芸の本質について考えることをテーマとする講演会と、参加者全員による手工芸への取組みを披露しあう懇親会で大いに盛り上がり、翌二日目には「知られざる西陣界限」の名勝とゆかりの伝統手工芸の名品を鑑賞すると

いうプログラムを満喫していただき、研修の成果を上げることができました。

しかも嬉しいことに、この企画が引き金となって、山形県遊佐刺し子の創作研究グループが毎年開催されている「クラフト・フェスタ・鳥海」を本連合会が後援させていただくこととなったり、また、福岡での制作者の皆様方の集いに対しても同様に後援させていただくなど、本連合会としての新しい役割の場や機会が誕生いたしました。

私どもは、こうした流れを一過性のものに終わらせず、手工芸創作に熱き思いを抱いておられる全国の皆さま方に積極的にアプローチを図り、多面的なバックアップの形態や方法を考案することで、わが国の手工芸創作文化の普及・発展に貢献していくという本連合会の使命にいっそう注力してまいりたいと考えております。

そのためにも、手工芸作品の創作を通し、わが国の「ものづくり文化」の根底に流れているもの、つまり「どんなものにも存在するにはそれだけの意味と価値がある。それを全うさせるのが我々人間に課された使命である」という強い信念に支えられた繊細にして豊かな感性を育てていくことが大切ではないかと思えます。

本連合会は、そうしたより本質的な要素にも目配りした活動を多彩かつ多面的に展開することで、全国手工芸作家の皆さま方からの熱い期待に応えて、共に学びあっていくことを何よりも大切にしていまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。

## ● 第46回創作手工芸展

本連合会主催の「創作主工芸展」は、今回で46回目の開催となります。

本年も東京都美術館のギャラリーCにて、11月8日(金)より11月15日(金)までの8日間にわたり、文部科学大臣賞、東京都議会議長賞など数々の受賞作品を展示いたします。

入場は無料となっておりますので、素晴らしい手工芸作品をご覧になっていただきたく皆様のご来場をお待ち申し上げます。

## ● 海外活動

「第14回 Japan Expoに参加して」

2013年7月4日(木)～7日(日)、フランス ノール・ヴィルパント展示会場にて、(株)美研インターナショナルのパビリオン、ステージへの推薦をうけて、「一枚の布から」の作品展示およびステージでのショーを行いました。

デザインの特徴は、和と洋の融合、伝統と革新、着装する人によって完成する自由度にあります。作品には、日本の美意識を意図して発信しました。変化する構造には驚きがあり何度もリクエストを受けて実演しました。ショーでは、現地モデルの方に加わり、フロアからも飛び入り参加いただき、交流のあるファッションショーを実施できました。作品の一部に受注があり、先日パリへ発送しました。

作品のプレゼンテーションは、創作活動であるとともに、学生や多くの人へ「ものづくりと創意工夫の楽しさ」を伝えるというメッセージを込めています。

東京都 大網 美代子 記

## ● 個展

「庄子悦子のイマジネーションの世界」

7月9日(火)～15日(月)、逗子文化プラザにて庄子悦子先生による創作人形手工芸個展「庄子悦子のイマジネーションの世界」が開かれました。初日より大変好評を得て、その様子は神奈川新聞(7月11日付朝刊)にて紹介されました。

「グアテマラ、トドスサントスクチュマタン村の  
複雑縫いとり織」

村岡三喜子先生による展示が下記日程・場所にて行われました。右は会場の写真になります。

- ・7月30日(火)～8月18日(日)
- ・京都市内 森の小枝

第46回 ● 公募 ● 賞 文部科学大臣賞 他

# 創作手工芸展

**入場無料**  
会場 東京都美術館ギャラリーC  
2013年11月8日(金)～11月15日(金)

9:30～17:30 (最終日は13:00まで)  
入場は開館の30分前まで



主催 公益財団法人 日本手工芸作家連合会  
〒101-0052 東京都千代田区神田小田路3-9-12 MOC/A 407号室  
電話 03-6282-5141 ファックス 03-6282-5140  
http://www.jpnhandicrafts.or.jp



## ● 遊佐刺し子スクール 土門教室

今回の支部・教室だよりは、山形県遊佐町で土門玲子先生が主宰されておられる「遊佐刺し子スクール 土門教室」をお訪ねしてきました。この教室は、生徒数41名、指導者4名の計45名を擁して、活発な活動を展開しておられます。

もともと伝承の途絶えかけていた遊佐刺し子の伝統の技法とデザインを復活させつつ、刺し子づくりの楽しさと奥深さを学ぶことを主眼としてスタートされましたが、横刺しのみで刺していくという遊佐刺し子独特の技法で作品を作り上げていく教室の雰囲気は、まことに和気藹々とした素晴らしいものです。

一見類似した刺し子に見えながら、その文様は判明しているものだけで115種類に上り、それらが駆使されて制作され実際に活用されてきた櫛曳き法被などが醸し出す「用の美」の見事さは見るものの心を捉えて離しません。

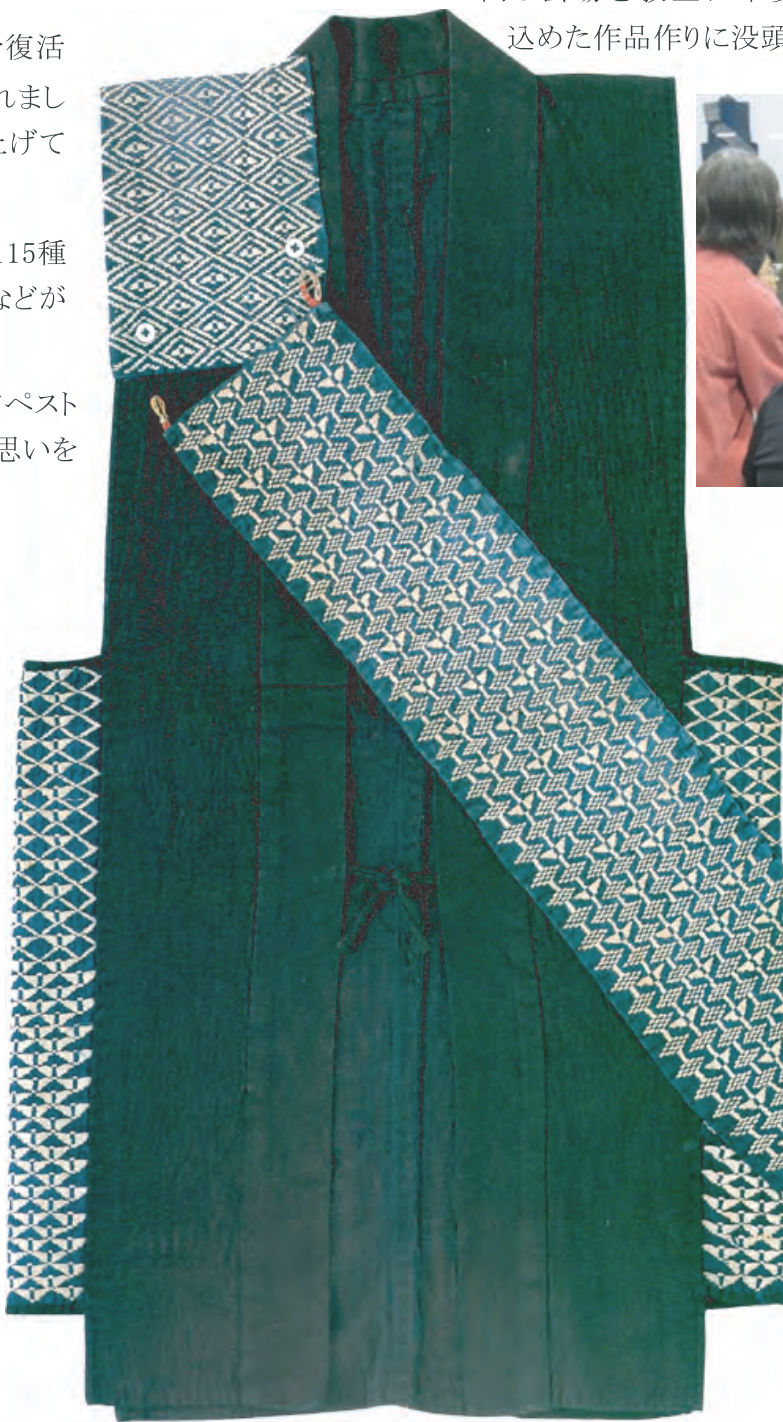
そんな遊佐刺し子の原点を基本に、さまざまな服飾品、ハンドバッグ、タペストリー、テディベアなどを製作しながら、奥深い遊佐刺し子の技法と先人の思いを学んでおられる生徒さんの目は本当に輝いています。



そうした教室活動の一方で、遊佐刺し子に象徴される日本文化の特徴や魅力についての発信活動も活発に行われており、英国のキルト作家スーザンブレスコさんの著書の中に遊佐刺し子の素晴らしさが紹介されたのを

契機に、英国のキルト展示会に招待され体験教室で参加するという活動国際的にも熱心に取り組んでおられます。

今回の取材時には、遊佐刺し子のコレクター佐藤いづみ先生の「櫛曳き法被コレクション」が周囲の壁を埋め尽くす大きな会場において、本連合会理事の三和正明氏による講演



(佐藤先生のコレクションから代表的な櫛曳き法被)  
遊佐町指定文化財櫛曳き法被四着のうち一着

「日本文化の特質とものづくりの原点」を特別企画として開催、生徒さんが地域の皆さん方と一緒にあって、平素の刺し子作りの奥にある日本文化の源流について聴講され、午後には同じ会場を教室に早変わりさせ、親しく土門先生のご指導を仰ぎながらそれぞれの思いを込めた作品作りに没頭されました。



土門教室では、本連合会が毎年開催している「創作手工芸展」への参加を恒例行事化しておられ、生徒さんもご自分の作品のレベルアップの目標としてこのイベントに臨まれるなど、創造的な制作活動の楽しさを大いにエンジョイしようとおられることも強く印象に残る取材となりました。

本連合会業務部 三和正明 記



遊佐刺し子スクール 土門教室  
〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町字京田109-8  
TEL:0234-72-2238  
メール:itomaki@crocus.ocn.ne.jp

## ● 京都研修会の開催

本連合会では、しばらく途絶えていた研修会を復活させることとし、その第一回目を日本の手工芸制作のメッカである京都において以下の要領で開催いたしましたところ、全国から22名の皆様方のご参加を得て、研修会として大きな成果をあげることができました。

【開催日】平成25年5月29日(水)～30日(木) (ご希望者には31日の旅程もご案内いたしました)

【研修プログラム】リーガロイヤルホテル京都に集合の上、

5月29日:研修講演「知られざる西陣境界の先人・歴史・文化・名勝に触れる」

(講師:本連合会業務部長 三和正明氏)

参加者全員による制作活動報告会と懇親夕食会

5月30日:寺之内通境界の歴史名勝探訪…宝鏡寺、妙顕寺、表・裏両千家前を経て長谷川等伯・本阿弥光悦ゆかりの本法寺…等伯作重文「佛涅槃図」(複製)

光悦作庭「巴の庭」等拝観

西陣聖天 雨宝院の重文「千手観音立像」、境内伽藍、希少品種桜等の拝観

西陣最西端の千本釈迦堂にて国宝「本堂」、多数の重文展観「宝物殿」拝観

足利家ゆかりの洛西の名刹「等持院」にて歴代将軍坐像、尊氏墓所、庭園拝観

5月31日(希望者のみ):新島襄旧邸、同志社女子大構内 新島八重関連展示 等拝観

同志社大学Neesima Room「会津と八重展」・礼拝堂見学、西陣織工芸美術館

松翠閣 視察、川島織物文化館 鑑賞

## ● 日本文化のメッカ京都研修会に参加して

公益財団法人の認定を受けての第一回京都研修の旅に参加しました。

5月29日ホテルに到着後、三和正明業務部長より京都の四季の美しさ、西陣境界の歴史の説明を受けました。

翌日はマイクロバスで移動し、宝鏡寺や妙顕寺境内をくまなく歩き、その美しさに感銘を受けました。続いて本法寺、次に雨宝院では重文「千手観音立像」に今までにない深い感動を覚えました。



(表千家不審庵門前)



(夢窓国師作とされる等持院庭園)

午後は千本釈迦堂 大報恩寺へ。このお寺の本堂は京洛最古の建物で、創建当時の姿を残す国宝建造物です。年中行事も昔のままのお祭りが殆ど毎月あるそうです。

最後は等持院に到着。こちらは足利尊氏将軍の菩提所ですが、再三の戦乱に見舞われながら文化財が現在も立派に保存されています。庭園は三代名園の一つであると同い、書院に坐してお抹茶をいただきながら住職様のお話を拝聴しとても有意義なひとときを味わいました。

京都郊外の民家のある場所に国宝級のお寺が存在していることに改めて古き京都の良さを感じました。

人生長生きも芸の内とか、元気は自分で作るものと思い、これからも前向きに精一杯励んでまいりたいと考えました。今回の研修旅行の喜びを改めて噛みしめています。

ご同行の諸先生方に種々とお世話になりました。

広島県 有川 郁子 記



公益財団法人として初めての研修旅行、地元としてのお手伝いもあるかと参加しました。前半は西陣界隈の散策をし、普段は何気なく通り過ぎているところを、来年は桜の季節に改めて歩いてみようと思いました。

後半の研修は今話題の新島八重ゆかりの史跡が点在する同志社大学構内、川島織物文化館での綴織、緞帳の制作現場を見学しました。

見て触って感じてと大忙しの3日間、三和さんの軽妙なお案内にあっという間に時間が過ぎ、気がつけば京都駅。名残が尽きぬ解散となりました。

初対面の方が多い中、旧知のごとく皆様とお付き合いできて良かったと感じた旅でした。

京都府 村岡 三喜子 記



(新島裏旧邸内部)



(研修会参加メンバーの皆さま)

## 資格取得のご案内

● 本連合会は手工芸教育の普及発展を目的とし、手工芸指導者の養成教育・資格認定を行っております。資格取得後は手工芸セミナー、教育の場へ指導者の派遣、技術向上の為の研修、講習会など行ってまいりました。これまで多くの手工芸作家・手工芸指導者に対して資格認定を行い、手工芸技術の普及に貢献しております。

資格取得については、本会の「ご案内」もしくはホームページをご参照ください。

資格取得は生涯学習の宝です。

### ● 新入会員紹介

小俣葉子 東京都

佐藤節子 神奈川県

竹田多子 神奈川県

水谷いづみ 広島県

加藤陽子 静岡県

原千春 静岡県

(平成25年4月～平成25年9月・届出順)

## 講習会のご案内

下記の講習会を予定しております。詳細はホームページ、又は事務局へお問い合わせ下さい。

毎週第2土曜日 10時30分～15時00分

実施年月	テーマ	講師	場所
H25年12月14日	織り	池田節子	京橋 越前屋ビル 8F
H26年 1月11日	ミニ盆栽	道家絢子	京橋 越前屋ビル 8F
2月 8日	欧州刺繍	土井イミ子	京橋 越前屋ビル 8F
2月24日	フラワーアブガン クロッシュのバック(毛糸)	道家絢子	クロバー(株)日本橋馬喰町ビル4F
2月28日	押し絵 兜	管原美東	大妻コタカ記念会館
3月 8日	初めてのタッセル作り	井口まゆみ	京橋 越前屋ビル 8F

## 作品展のご案内

実施年月	テーマ	作家	場所
10月26日	遊佐刺し子体験教室	土門玲子	庄内空港会議室
10月26日～27日	シャドウアート展	石田則子	市川市東部公民館文化祭
11月7日～10日	茅ヶ崎市市民文化祭参加 染色展示	山本尋子	茅ヶ崎市市民文化会館
11月14日～26日	インターナショナルキルト ウィーク横浜	土門玲子	パシフィコ横浜みなとみらい
11月29日～12月3日	カルトナージュ展	よこた圭子	渋谷区代々木上原Do Progetto
11月予定	ザルツブルグのクリスマスフラワー デザイン体験教室	片山理恵子	横浜高島屋
H26年2月20日～2月22日	手工芸教室展	道家絢子	大田区文化の森
2月21日～2月22日	手作りフェア in九州アーティスト コーナー手工芸展示	平山泰子	マリメッセ福岡

### 次回発刊予定のご案内

次回発刊 SOUSAKU 196号(創作手工芸)は平成26年4月を予定しております。

●表紙作品 猪股 一博 「月・影・光」  
(第45回創作手工芸展 文部科学大臣賞受賞)

発効日/2013年10月吉日

発行/公益財団法人 日本手工芸作家連合会

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10 MOビル407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail:info@shukogei-sakka.or.jp

ホームページ:http://www.syukogei-sakka.or.jp